



# DANRYU

発行 (公財) 鹿児島県国際交流協会 Kagoshima International Association

© K. P. V. B.

## 留学生から学ぶ外国文化講座



ベトナム語の勉強

今年度は、国際理解の推進として県内の大学に通う留学生が講師となつて文化紹介をおこなう「留学生から学ぶベトナムの文化・言葉・料理に親しむ講座」と「インドネシアの文化・言葉・料理に親しむ講座」を開催しました。

それぞれ全3回の講座として実施し、第1回と第2回の講座では、ベトナムとインドネシアそれぞれの国の言葉や文化を学び、第3回では料理を作りました。残念ながらベトナム講座の第3回目は台風の影響により、中止とさせていただきます。

参加者からは、「あまり縁がなかった国だったが、文化に接する機会ができてとても興味深かった。」「言葉は難しいが、なじみやすいと感じた。」「講師の日本語がとても上手だった。」など感想をいただきました。

参加者の皆様にはベトナムやインドネシア、また県内の留学生に親しみを持っていただけたのではないかと思います。

今後さらなる交流につながるよう期待しております。



インドネシア料理を作る様子

## 多文化共生地域づくり事業 (災害時における外国人支援講座)



意見発表の様子

平成30年10月3日、災害時に外国人が直面する課題や地域住民の支援について考える講座を県民や行政の方などを対象に開催しました。

(一財) 熊本市国際交流振興事業団から講師をお招きし、47名の方が受講しました。

講座の前半は、2016年に起こった熊本地震時の実体験に基づく災害時における外国人への支援のあり方について講師より講話いただき、後半は、鹿児島県にお住まいの在住外国人3名の方々から、出身国と日本との防災意識の違いや災害時に心配なことなどをお話いただきました。

参加者の方からは「『給水』という言葉が分かりにくいという話に、はっとさせられた。これからは、やさしい日本語を意識したい。」「外国人の目線で防災についての率直な意見がもらえてよかった。」との感想をいただきました。今後も当事業が多文化共生の地域づくりにつながることを願っています。

## 鹿児島で世界を語ろう～第24回外国人による日本語スピーチコンテスト～



本選出場者（前列）と審査員（後列）

今回のコンテストには38名（12カ国・地域）の県内在住の外国の方が予選に出場し、10名（7カ国）の方が、平成31年1月26日に行われた本選で発表しました。『アラマア!』というタイトルでスピーチをしたマレーシア出身で日置市国際交流員のヌルルフダ・ビンティ・シャフィイさんが最優秀賞を受賞しました。「アラマア」というマレーシア語と日本語の共通の言葉を通して、お互いの国の文化や言葉の違いを理解し、尊重し合うことの大切さを教えてくれました。身振り手振りとともにユーモア溢れるスピーチを披露し、340名の聴衆を惹きつけていました。学んできた日本語で自身の

経験や思いを堂々と語る出場者の皆さんの姿は、これまで日本で頑張ってきた様子を如実に物語っているようで、聴衆の皆さんも心を掴まれていたようでした。今後も一人でも多くの県民の皆さんに、国籍や文化の違いを越えた国際交流の場を提供していきたいと思えます。

## 日本語・日本理解講座



課外授業で日本文化体験

鹿児島で生活する外国人が、生活に役立つ日本語や日本人の生活習慣などについて学ぶ「在住外国人のための日本語・日本理解講座」を平成30年5月から平成31年2月まで全60回（水曜昼間クラス30回、木曜夜間クラス30回）実施しました。

今年度は、病院や学校などで使う日常語を学んだり、クラスのみなさんに講座の中で、出身国を紹介してもらいました。お互いの国を知る良い機会となり、共通することや異なる部分について意見交換しました。各期の最後の授業では、今までを振り返るとともに、それぞれが出身国の料理を持ち寄り、覚えた日本語を使いながら料理の名前やつくり方について説明しました。

参加者は「もっと自分の思いを日本語で伝えたい。」とお互い励まし、協力しあいながら積極的に学習し、国籍・性別・年齢・文化の違いを超えた一つの仲間として友好を深めていただけたようです。

## 日本語サロン おしゃべりひろば



祭りについて学ぶ様子

日本語の日常会話が可能な外国人を対象に、お互いのネットワークの形成や日本語の上達を目的とした「日本語サロンおしゃべりひろば」を今年度は全20回行いました。

今年度は、鹿児島地方気象台や鹿児島中央警察署の方々などにお越しいただき、桜島防災や紛失物対応など、日本や鹿児島で生活する上で役立つ情報をテーマに話題を提供していただきました。また、足踏み織り機を使つての手織り体験や明治維新、鹿児島伝統の祭りなどの文化についても楽しく学びました。

参加者からは「鹿児島の歴史や文化をもっと学びたいと思った。」「新しい友達ができて楽しかった。」「日本語をもっと上手に話せるよ

うに努力したい。」という声が寄せられました。

「おしゃべりひろば」をきっかけに参加者同士の輪が広がり、日本語を学ぶ意欲につながっていくことを期待しています。

## 英語絵本のよみかたり講座

幼少期から英語に触れる機会を提供することで英語への関心を高めることを目的とし、3才から小学生くらいまでの子どもを対象に県国際交流員による「英語絵本のよみかたり講座」を今年度は12回実施し、そのうち4回は出張講座として、始良市、南九州市、南さつま市及び西之表市で行いました。

6月の講座では、講師であるクエク国際交流員（シンガポール出身）が作成した紙芝居「new home」のよみかたりをはじめ、絵本やゲーム・工作を行いました。ゲームでは、英単語を発音する子ども達の賑やかな声が多く聞かれました。簡単な挨拶や繰り返される文章で構成された紙芝居「new home」では、色彩豊かな絵と講師の優しいよみかたりにより子ども達を物語の世界へ引き込みました。今後もこの講座が、子ども達にとって楽しく英語に触れる機会となるよう努めたいと思います。



講座の様子

## 県国際交流員による文化紹介講座

県国際交流員（中国・韓国・シンガポール・アメリカ出身）の4名が、県民の国際理解を促進し、多文化共生の地域づくりへの関心を高めることを目的に、自国の文化や料理を紹介する講座を8回にわたり開催しました。

薩摩川内市での「世界を知ろう アメリカ紹介講座」、鹿児島市での「五感で楽しむ韓国文化講座」、西之表市での「シンガポール文化紹介講座」など、離島も含め、多くの県民の方々にご参加いただきました。

かごしま県民交流センターでは、韓国出身の徐国際交流員が料理講座と文化紹介講座を開催しました。料理講座では、韓国の屋台で馴染み深い「トッポギ」、「ホットク」の2品を作りました。

参加者からは、「料理を作って食べるだけではなく、韓国についての色々なお話を聞いてよかった。」との感想が聞かれるなど、国際交流員の出身国について理解してもらう良い機会となりました。



五感で楽しむ韓国文化講座

## 県内在住外国人による公募型国際理解講座

県内に在住する外国籍の方を講師として公募し、自らが多文化共生の地域づくりに積極的に参加していただくことを目的としたこの事業では、今年度は「ハンガリー文化紹介講座」「ブラジル文化紹介講座」を開催しました。

「ハンガリー文化紹介講座」では、県内にお一人しかいないハンガリー出身の講師にハンガリーと鹿児島の意外な共通点などをご紹介いただきました。また、ブラジル鹿児島県人会創立105周年を記念して開催された「ブラジル文化紹介講座」では、鹿児島大学の県費留学生2名が講師となり、ブラジル移民や先住民のこと、昔話（アマゾンの起り）を教えていただき、また鼻で鳴らす笛の体験もしました。

いずれの講座においても、参加者の方々からの質問が絶えず、大変興味を持っていただいたようでした。また、参加者からは「異文化を知ることとはとても大事なことだと思った。」「クイズや昔話があり、充実していてあっという間だった。」などといった感想をいただきました。

今後もこのような講座を通して、在住外国人の方と県民の方々が互いの存在や文化について理解を深め、日々の生活の場において協力しあえるような間柄になることを期待しております。



ブラジル文化紹介講座

## 地域国際交流促進事業



MBC 夏祭りの様子

県民の方々に国際交流への関心を高めてもらうため、地域在住の外国籍の方々や国際交流団体と協力しながら、県内各地のイベントに当協会の国際交流ブースを出展しています。今年度は、鹿児島市での MBC 夏祭り、日置市でのまるごと伊集院フェスティバルに参加しました。

平成30年7月25～26日にブース出展した「MBC 夏祭り」では、国際交流員や留学生、在住外国人と一緒に「世界の挨拶スタンプラリー」「名前をハングルで書こう」「中国のおりがみ」「シンガポールの消しゴムはんこ」などを体験しました。「世界の挨拶スタンプラリー」では、子ども達がインドネシア語やポルトガル語、英語など6言語の「こんに

ちは」や「ありがとう」を国際交流員や留学生と練習してスタンプを集めていました。

県民の皆さまに異文化へ親しんでいただく良い機会となりました。

## 協力隊 OB と留学生が先生事業



南九州市立清水小学校にて

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊 OB 会と当協会の3団体で実施しているこの事業は、年間約40校の小・中学校や特別支援学校に、青年海外協力隊として世界各国で活動していた帰国隊員や県内に在住する留学生などの外国人を講師として派遣しています。

この事業では、協力隊 OB による海外での活動体験の話や外国人との交流により、国際協力・国際理解を学ぶことを目的にしています。

児童・生徒からは、「協力隊の活動に興味をもっていたので、大人になったら自分も隊員になって外国の人たちを助けたいとさらに思った。」「クイズやゲームを通して文化が日本と違うことを知り、楽しく勉強できました。」などの感想をいただきました。

児童・生徒にとって協力隊の活躍や留学生の体験談を直接聞くことは、海外に興味をもつきっかけになるだけでなく、自身について見つめ直したり、将来の夢や目標について改めて考えたりする良い機会となっているようです。

## 鹿児島県青少年国際協力体験事業



ミーガルラ村にて

この事業は、開発途上国で活躍する青年海外協力隊員の活動現場に鹿児島の青少年を派遣し、国際協力に対する理解を深めるとともに、ホームステイなどでの異文化体験や交流を通して、国際性豊かな青少年を育成することを目的に、鹿児島県青年海外協力隊を支援する会、青年海外協力隊鹿児島県 OB 会と当協会が構成された実行委員会で実施しています。今年度は、7月25日から8月1日までの8日間、県内各地から選抜された15名の中高生を初めてスリランカ民主社会主義共和国に派遣しました。派遣期間中に訪れた保健師や動物園の飼育員として活動する協力隊員の活動視察では、いろいろな活動形態があ

ることを理解し、その国にあった支援のあり方を考えなければならないのだと気づく機会にもなりました。また、農村部でのホームステイでは、日本とは異なる生活環境や文化の違いに戸惑い、言葉にも苦労しながら、現地の方々とコミュニケーションを取り、ホストファミリーのやさしさに触れ、貴重な時間を過ごすことができました。「協力隊の方々が、信念を持って活動されている姿を見て、心からカッコいいと思いました。私もそのような人になりたいと思います。」といった感想も見られ、発展途上国で活躍する協力隊員の姿は、生徒一人ひとりの心に深く刻まれたようでした。

## 韓国全羅北道文化探訪団派遣事業

韓国の全羅北道庁から招待を受けて、全羅北道を訪問するこの事業も、今回で10回目となり、今年度は10月24日から28日までの5日間、鹿児島デザイン協会の9名の芸術家の皆様に参加していただきました。

滞在期間中は、全羅北道産業デザイナー協会の皆様との交流、美術館や博物館の訪問、益山百済文化遺跡地区や全州韓屋村の視察などを行い、全羅北道の歴史や文化に直接触れる充実した時間を過ごしました。文化交流では、鹿児島デザイン協会と全羅北道産業デザイナー協会の芸術家の方々がお互いの作品の観賞や意見交換を行いました。

参加者からは、「伝統・文化を継承していくことの大切さを感じました。」「建築物のハイセンスなたたずまいに良い刺激を受けました。」などの感想をいただきました。

この事業を通じて、鹿児島と全羅北道との民間交流が促進されることを願っています。



百済遺跡地区見学

## 香港城市大学専上学院日本語研修

7月10日から20日間に渡り、香港城市大学専上学院の学生11名が、日本語学習をはじめ、5泊6日のホームステイ、日本料理作り、茶道、大学訪問などを含む日本語研修に参加しました。

浴衣着付け体験では、自分で浴衣を着付ける方法を習いました。何とか自分で着た浴衣で参加した照国神社の六月灯は、普段の旅行では味わえない特別な体験となりました。また、大雨の中で必死に担いだ「おぎおんさあ」での神輿担ぎ体験も、学生達にとって忘れられない思い出となりました。

期待と不安で始まったホームステイは、「もっと長い時間、家族と過ごしたかった。」「香港に戻っても家族とは連絡をとり続けたい。」という声があがるほど充実した時間となり、本当の家族のように過ごしながら、日本の生活を味わうことができました。

日本語講座の先生方、文化講座の先生方をはじめ、本事業に関わってくださった多くの方々のおかげで、学生は全身で鹿児島を味わうことができました。この彼らの貴重な経験が、これからの鹿児島と香港の友好関係の支えとなることを期待しております。



浴衣着付け体験

## 鹿児島県人世界大会

11月1日と2日の2日間、鹿児島県人世界大会が鹿児島市内で開催され、海外20カ国・地域に加え、国内各地の県人会組織なども参加しました。これは、明治維新150年を契機に、世界中の県人会とのネットワークを発展させ、次世代へ継承するとともに、世界で活躍する県出身者の掘り起しを行い、新たなネットワーク拡大を目指すこと、そして「かごしま KIZUNA プロジェクト」のキックオフと位置づけ、未来を担うグローバル人材の育成、地球規模での活発な経済交流を目指すことを目的として開かれました。

鹿児島出身者などを世界規模で集めた交流イベントが開かれるのは今回が初めてで、鹿児島商工会議所が中心となった実行委員会には、当協会も加わり、運営に協力しました。参加者は各種プログラムを通じて交流を深めるとともに、鹿児島の素晴らしさを再認識することができる機会となりました。



歓迎レセプション

## JICA 情報

～鹿児島県 OB 会が熱い!?～

JICA 海外協力隊に参加した OB が帰国後も県内各地で活躍しています。



JICA 海外協力隊派遣者数は、累計で約 53,000 名となりました（2018 年 10 月末時点）。そのうち鹿児島県出身の延べ派遣者数は 900 名を超えており、2018 年 9 月末現在も 44 名の鹿児島県出身者が現地で活動中です。

### 【JICA 海外協力隊の 3 つの特徴】

日本の技術を役立てる・異文化社会における相互理解・ボランティア経験の社会還元。JICA デスク鹿児島は、青年海外協力隊鹿児島県 OB 会と協力して県内各地のイベントに参加しています。

Q. 興味はあるけど…

A. まずは、お近くのイベントブースにお越しください。国際協力について楽しく学べるヒントをたくさん用意してお待ちしています。また、JICA 海外協力隊経験者が応募相談にもお応えします。



【出展ブースの様子】

### 【地域のイベント情報】

JICA デスク鹿児島へお問い合わせ下さい。青年海外協力隊鹿児島県 OB 会各支部のイベント情報をご紹介します。（鹿児島支部、鹿屋支部、霧島支部、南薩支部、北薩支部、熊毛支部）

鹿児島県国際交流協会には JICA 事業の窓口として、「JICA デスク鹿児島」があります。  
JICA ボランティアや国際協力にご興味のある方は、下記連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。  
< JICA デスク鹿児島 > TEL : 099-221-6624 (直通) E-mail : jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

## 国際交流プラザのご案内

- ・ イベント情報等の掲示板
- ・ 国旗、民族衣装、地図、ユニセフビデオの貸し出し
- ・ 外国語新聞、図書、雑誌等の閲覧
- ・ 在住外国人の生活相談
- ・ 中国語ランチタイムトーク（毎週火曜 12:00 ～ 13:00）
- ・ 韓国語ランチタイムトーク（毎週水曜 12:30 ～ 13:30）



国際交流に関するご質問や、ホストファミリー・語学ボランティアの登録については、随時受け付けております。また、協会内には JICA デスク鹿児島もあります。青年海外協力隊などのご相談についても受け付けております。お気軽にお立ち寄りください。

《開館時間》 9:00 ～ 17:00（火曜日～日曜日）  
《休館日》 月曜日（但し祝日の場合はその翌日）  
年未年始（12月29日～1月3日）



【国際交流プラザ，本誌に関する問い合わせ先，相談窓口】 公益財団法人 鹿児島県国際交流協会  
〒892-0816 鹿児島市山下町14番50号 かがしま県民交流センター1階  
TEL: 099-221-6620 FAX: 099-221-6643 E-mail: kia@kiaweb.or.jp  
ホームページ: <https://www.kiaweb.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc/>